

人文書・社会学 ご担当者様 新刊のご案内

みずき書林



6月14日刊行

宗教からみる戦争

Society for Sociology of Warfare

戦争社会学研究 第3巻

宗教は殺生を戒め、平和を好むのか。

宗教は聖戦を主導する、戦う主体なのか。

信仰と暴力の関係に迫る。

戦争社会学研究会 編
A5判並製・280頁
定価：本体3000円＋税
ジャンル：社会学・戦争
ISBN：978-4-909710-09-3 C3030

宗教と戦争は、人の生死に関わる。

多くの宗教では殺生に対する戒律を有し、戦争を「悪」と捉えて、平和を好むと考えられてきた。

しかし他方で、宗教や信仰者は戦う主体でもあった。宗教が戦争の道義性を担保して「正戦」として後押ししたり、さらには戦いそのものを「聖戦」として積極的に推進することもある。

近代戦で宗教が担ってきた役割とは。

【戦争社会学研究会】

戦争と人間の社会学的研究を進めるべく、社会学、歴史学、人類学等、関連諸学の有志によって設立された全国規模の研究会。故・孝本貢（明治大学教授）、青木秀男（社会理論・動態研究所所長）の呼びかけにより2009年5月に発足し、以後、年次大会をはじめ定期的に研究交流活動を行っている。



【好評既刊】戦争映画の社会学

作品は、表現形式によって時代によって、いかに変奏され、受容されるのか。市川崑と塚本晋也によって2度映画化された『野火』から『戦艦ヤマト』『この世界の片隅に』まで、娯楽映画の抵抗と迎合。

A5判並製・304頁・定価：本体3200円＋税

ISBN978-4-909710-02-4 C3030



冊

取扱取次：八木書店（トーハン・日販・大阪屋栗田他帳合からのご注文が可能。ご返品承ります）

貴店名

ご担当

戦争社会学研究 第3巻

宗教からみる戦争 3000円＋税

冊

FAX：03-4586-7141 1冊からお気軽にご注文ください！

内容についてのお問い合わせは……

みずき書林

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-7-3-303 rintarookada0313@gmail.com TEL:090-5317-9209 (岡田)